



地域おこし協力隊員を活用した1村1広域活動組織の事務負担軽減

まつかわむら

まつかわむら

松川村すずむしの里保全組織委員会（長野県松川村）

- 松川村は長野県の北西部に位置し、信州安曇野の豊かな歴史と文化、四季折々の自然環境に恵まれた農村地帯であり、村では地産地消、食育活動、育成会活動に取り組んできた。
- 基幹産業である農業の振興を通じて地域を守り、豊かな農村環境を子供達の世代に引き継ぐため、平成19年度から「農地・水・環境保全向上対策」に取り組む。（H19：10組織→H29：20組織）
- 事務作業の多様化及び各組織の事務担当者の高齢化が進んだため、代表者会議で活動組織の広域化による事務負担の軽減を検討。広域活動組織の事務と地域活性化の取組を支援する『地域おこし協力隊員』を募集し、平成28年度に1村1広域活動組織への統合を実現。

【地区概要】

- ・取組面積 954.3ha
（田851.9ha、畑83.5ha、草地0ha）
- ・資源量 水路150.2km、農道95.9km
- ・主な構成員 農業者、非農業者、
営農組合、JA、土地改良区等
- ・交付金 約69百万円（H29）

農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 松川村は、基幹産業である農業の振興を通じて地域を守り、安曇野の豊かな農村環境を子供達の世代に伝えることが重要な課題
- 農業者の高齢化が進み、集落が従来どおりの地域資源保全活動を継続できるのか不安を感じる人が増加
- 農地・水・環境保全向上対策に取り組むことにより、①高齢農業者に代わる地域資源の保管理体制の整備、②農家収入の増加、③安曇野市・松本市のベッドタウンとして増加する非農業者の農村に対する関心向上などを期待



松川村の景観

取組内容

- 【統合前（H19～H27）】
- 各組織（集落）が個々に活動を実施
- 【広域活動組織への統合後（H28～）】
- 運用の統一化の調整が難しい農地維持活動、共同活動は引き続き検討することとし、長寿命化の活動を先行して、平成28年度から全組織（H28は19組織）の年間交付金額を一括運用するため、広域活動組織化
- 広域活動組織の事務は、H27に募集、H28から採用した地域おこし協力隊員が支援（村の経済課に配置）



広域活動組織の活動計画図

取組の効果

- 農業者には馴染みのない、長寿命化対策の契約手続き等の事務を事務局（地域おこし協力隊員）がカバーすることで、各組織（集落）の事務負担が大幅に軽減
- 各組織（集落）の、平成28年度以降の5年間の長寿命化対象施設リストづくりと着工順位付けを実施。地域の合意が得られたことで、必要な改修を優先度に応じて計画的かつ効率的に実施することが可能となった
- 地域おこし協力隊員の活用により、①地域にとっては、広域活動組織の事務の引き受け手の確保、②協力隊員にとっては、関心を持っていた農業農村振興に携わり、しかも地域の多くのキーパーソンと交流を深め、頼ってもらえるようになるなど、双方にメリット



優先順位の高い箇所から長寿命化を実施



うきしまちく 浮島地区農地・水・環境保全管理協定（静岡県沼津市） ぬまづし

- 本地域は、希少な湿原植物が生育し、「静岡県版レッドデータブック2004」では、“今守りたい大切な自然”の1つに挙げられているが、遊休農地の有害植物の繁茂や、工事残土の不法投棄で、地区目標の「住んでよかった浮島・住みたい浮島」に向け、環境や農地の保全が必要となっていた。
- NPO法人と連携し、遊休農地や不法投棄場所にひまわりを植栽し、開花時期には、ひまわり祭りを開催している。また、中日本高速道路(株)と連携し、ヨシの刈り取りなどを実施。
- これにより、遊休農地2,000m²の解消や、地域の子どもの環境教育の機会を提供する他、都市住民との交流や、高速道路SAでの農産物の直売などに発展している。

【地区概要】

- ・取組面積:85ha（田74ha、畑11ha）
- ・資源量 水路15.2km、農道16.2km
- ・主な構成員
農業者、非農業者等
- ・交付金 約7百万円(H29)

農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 希少な湿原植物が生育し、「静岡県版レッドデータブック2004」では、“今守りたい大切な自然”の1つに挙げられている。
- 農業者の減少・高齢化により遊休農地が発生し、希少種を脅かす有害植物が繁茂。また、工事残土の不法投棄などで、地区の環境悪化が懸念。
- 地区目標に掲げている「住んでよかった浮島・住みたい浮島」に向け、環境や農地の保全が必要。



浮島沼の景観

取組内容

- NPO法人と連携し、景観向上・環境保全活動を実施。
 - ・ 景観向上活動として、遊休農地や残土の不法投棄場所に、地域住民等とともに1万5千本のひまわりを植栽。「**浮島ひまわりらんど**」として造成。
 - ・ 古城社内の湧水を活用したイベントを開催し、水源確保などの環境教育の場を提供している。
- 県の行う「一社一村しずおか運動」により、中日本高速道路(株)とともに、「ヨシの刈り取り」等の交流イベントを実施。



浮島ひまわりらんど



企業と連携したヨシの刈り取り

効果、課題、今後の展開

- NPO法人との連携
「浮島ひまわりらんど」の造成により、以下の効果が発現している。
 - ・ 遊休農地3,000m²を解消。
 - ・ ひまわりのフォトコンテストを開催し、市内外から約700人/年が来場。
 - ・ 地元農産物の販売と組み合わせ、地区外の住民との交流イベントとして発展。
- 中日本高速道路(株)との連携
 - ・ 「稲刈り体験」などに、毎年、社員や親子など都市住民30人程度が参加。
 - ・ 共同活動をきっかけに、高速道路SAでの地元農産物の直売を行うようになった。



疎水を活かした農村コミュニティ強化と観光の推進

中間農業地域

むらやま さと はぐく

ほくとし

村山の郷・育む会（山梨県北杜市）

- 本地域は、八ヶ岳、南アルプス山脈、奥秩父山塊といった山々に囲まれ、南には富士山も望める市のほぼ中央にある高根町に位置する水田地帯。疎水百選に選定された「村山六ヶ村堰疎水」を活用した様々な活動が、本交付金の取組により充実。
- 小学校等と連携して、村山六ヶ村堰疎水の歴史や役割について学ぶ親子3世代のイベントを開催したり、疎水によって育まれる食材の魅力発信などもイベントに取り入れ、地域内の様々な組織と連携し、地域間と三世代の交流を図り、地域を活性化。

【地区概要】

- ・取組面積 344ha
(田228ha、畑116ha)
 - ・資源量 開水路12.1km、農道3.4km
 - ・主な構成員 自治会、婦人会等
 - ・交付金 約26百万円(H29)
- 〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、旧六ヶ村の17集落により構成されているが、共同活動に参加する若い世代の減少等により、集落単位のコミュニティ機能が低下。
- 疎水百選に選定された「村山六ヶ村堰疎水」やその周辺に生育している希少植物などの観光資源があるものの、それらの資源を保全し、郷を守り育て次世代につなぐという気運が低いことが課題であった。



疎水百選に選定された村山六ヶ村堰疎水

取組内容

- 本交付金を活用し、集落間で連携し、小学校の総合学習や親子3代で疎水の歴史や役割について学ぶウォーキングイベントを開催。
- イベントでは、女性グループによる地元産トマトをPRするトマトスイーツの試食コーナーを設けるなど、地域内の様々な組織と連携した活動を展開。
- 植生に詳しい専門家と協力し、キキョウ等、疎水周辺の希少植物を楽しむ新たな散策ルートを考案し、農村原風景探訪のイベントを開催。



イベントにおける試食コーナーの様子



絶滅危惧種のキキョウ

取組の効果

- 地域内の子どもを対象に疎水の歴史や役割を学ぶ環境学習に取り組むことで、親世代にも、疎水保全に係る理解を醸成。
- 村山六ヶ村堰疎水や地元食材など地域の魅力を発信。知名度を上げることにより、多くの観光客を受け入れ地域を活性化。

〔 H28年度ウォーキングイベント参加者数:120人(3小学校4年生)
H28年度農地維持活動の参加率:9割超 〕

〔 H28イベント広報活動:広報誌 3回、TV取材 3回
地域間交流イベントにおける地域外からの参加割合:約3割
希少植物を楽しむイベント参加者数:約145人 〕



小学校と連携したイベントの様子

生産緑地における農業者と地域住民等の共同による取組

ちーむ ぞうだぼり ふちゅうし
Team雑田堀（東京都府中市）

- 本地域は、府中市の中部に位置し、府中用水の支流である雑田堀用水の流域で、米やさつまいも等の栽培が行われており、農業者と小学校のPTAを中心に水利施設等の保安全管理（用水路を含む緑道の清掃）を実施していたが、農業振興地域ではないため、農地・水保安全管理支払には取り組めなかった。
- 平成26年度の多面的機能支払の制度創設により、農地維持支払は生産緑地等も対象となったこと、また、水利施設等の保安全管理について、農家と小学校のPTAが中心となり、組織を立ち上げた。
- 従来、農家が実施していた施設の点検、「雑田堀用水に親しむ会」を中心として実施していた草刈等を活動組織の取組として実施。

【地区概要】

- ・取組面積1.9ha（田0.2ha、畑1.7ha）
- ・資源量 水路0.7km
- ・主な構成員
農業者・小学校PTA、雑田堀用水に親しむ会、企業社員等
- ・交付金 約4万円（H29）

農地維持支払

活動開始前の状況や課題

- 本地域は 都市化が著しく進行し、雑田堀用水に沿って生産緑地が点在する状況まで宅地化され農地が減少していることから、水利施設等の保が重要
- 平成14年頃から農業者と小学校のPTAを中心に水利施設等の保安全管理（用水路を含む緑道の清掃）を実施



貴重な農地



幹線水路

取組内容

- 平成27年度から本取組により水路法面の草刈りを実施
- 緑道に日日草を植栽する活動
- 地域の小学校の放課後活動との連携（小学生に読み聞かせ等を実施）
- 構成員以外の地域協力者と「地域活動懇談会」を実施
- 市民協働まつりで活動事例を発表（参加者数50人程度）



活動組織と小学生等による水路の草刈り



読み聞かせ

取組の効果

- 構成員に限らず、小学生や保護者等が多く参加（毎回約50人参加）
- 緑道の植栽、看板による注意喚起、ゴミの投棄が減少
- 地域ぐるみで市議、援農ボランティア、企業社員等10数名も活動に参加し地域が活性化
- 担い手の確保・育成が進みつつある



看板の設置



女性グループを中心とした活動で活性化

ひがしあがつままち

岡崎地区保全協議会（群馬県東吾妻町）

- 当地域は榛名山と吾妻川の間、前橋市の北西に位置した田園地帯で、北西部にある吾妻溪谷に代表される景勝地への副道として車両通行があり、道路沿いの農地ではゴミの不法投棄による環境悪化が問題となっていた。
- 平成20年度から農地・水保全活動組織の岡崎地区保全協議会が発足。1構成員として女性組織「じろべえ会」も参画。
- 女性組織は、取組のPR活動や地域との交流会を主体となって推進しており、地域振興の一助となっている。

【地区概要】

- ・取組面積 83ha（田39ha、畑44ha）
 - ・資源量
開水路 7.6km、パイプライン 20.1km、
農道 20.2km、ため池6カ所
 - ・主な構成員
農業者、自治会、女性会、小学校
PTA等
 - ・交付金 約5百万円（H29）
- 〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

女性の役割

- 女性だけで構成する「じろべえ会」は地域の新田開発に尽力のあった代官の遺徳をしのび、その屋敷跡周辺の清掃活動等を30年以上継続している組織。
- 農地・水の活動組織の設立にあたって、「じろべえ会」との活動目的が一致したことで、組織の1構成員となった。
- 活動組織等が行うPR活動等では主体となって活動を進めている。



代官屋敷跡周辺 清掃活動



活動の広がり



農地・水回りの
環境美化活動



花の植栽活動



地域の祭礼での
餅つき大会



農業用パイプラインを
利用しての消防訓練
（餅つき大会時）

- 祭礼等のイベントの際は活動組織のPRとして「じろべえ会」が主体となって餅つき大会を開催。
- 地域の活気を増進して、地域の活性化にも貢献。

活動の効果



女性部の結束は強く
会員も増え続けている



「家を守るのは女性」と
積極的に消火訓練に参加



- 女性が主体で実施していることもあり、地域のイベントの際は、非農家も含む地域住民が気軽に参加しやすい環境が形成されている。
- 「じろべえ会」では毎年1回は会員で旅行に行くなど、つながりを深めることも行っており、現在でも会員は増え続けている。活動組織の活気にも繋がっている。



人と人のつながりによる多様な取組の展開

さんくちよう

なすしおばらし

三区町環境保全隊（栃木県那須塩原市）

- 当地域では40年ほど前から混住化が進み、それまでの純農村地帯から現在は約750戸の85%が非農家となり、人と人の繋がりが希薄となり、伝統行事の衰退化が進んでいた。
- 問題を解決する一助となればと、農地・水の事業紹介を受け、農業者7名が発起人となり、「人と人のつながりをどう構築していくか」を大きなテーマとして農業者と非農業者が一体となった地域づくりをスタートした。
- 農業者と非農業者、都市住民と「人と人のつながり」を構築し「地域の協働力」を一步一步着実に高める活動として非農家や都市住民を巻き込んだ環境保全活動等に取り組んでいる。

【地区概要】

- ・取組面積 159ha(田149ha、畑 10ha)
- ・資源量
開水路 18.3km、農道30.0km
- ・主な構成員
農業者、自治会、老人会、消防団、
農協女性会、子供会育成会、NPO等
- ・交付金 約8百万円(H29)

〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

取組の目的

○「人と人のつながり」を構築し、「地域の協働力」を一步一步高める活動として、農業者と非農業者のバランスのとれた取組を推進。

取組の例

- ・生き物調査
- ・田園ウォーク
- ・地域イベントに協賛しての広報活動
- ・環境等の啓発活動
- ・景観形成のための植栽
- ・子供会育成会との連携(見学会等)
- ※活動に当たっては非農家や都市住民との交流を図っている



生き物調査



啓発看板の設置



花植えによる景観形成



田園ウォーク

活動の広がり



NPOと保全隊の取組状況
(歴史公園の清掃活動)

活動をホームページで広くアピール



- 農地・水の取組をきっかけにNPO法人三区町地域資源・環境保全会を設立し、活動組織では取り組めなかった歴史的施設の保全や地域の環境保全の取り組みを開始。
- 三区町環境保全隊やNPO法人三区町地域資源・環境保全会ではHPを作成し、活動を広くアピールしている。

新たな展開



地域住民等へのアンケート



「三区ど〜すっ会」



全国環境保全型農業
コンクール大賞(大臣賞)



「三区女性の集い」

- 地域の農業・農村を誰が担っていくのかを協議する30代～40代の若者でこうせいされる「三区ど〜すっ会」を中心に、将来に向けて話し合いを進めている。
- 取組に重要な役割を果たしている、女性の感性を活かす「三区町女性の集い」を立ち上げ様々な活動に取り組んでいる。
- 取組の成果として、各種コンクールにエントリーし受賞。これが自信に繋がる。